ここが聞きたい

一般質問

増え続ける要介護・要支援の対策は

中野敏勝議員

問 世界でも例のない超高齢化社会への道を歩む日本、生活習慣病対策や介護予防対策で、健康で自立して暮らすことのできる長寿社会、一生涯を元気で活動的に生活ができる社会が何よりも求められている。要支援や要介護1の軽度の認定者が大幅に増え続けている中で、リハビリ・筋力トレーニング等によって機能を回復させるための具体的な取り組みや、介護予防サービスの推進、地域相談窓口、早期診断が受けられる支援サービスの推進、痴呆症等のサポート体制を充実させ介護予防と要介護を進行させないための方策が必要である。

❶「高齢者保健福祉の概要」をどのようなところへ配布し、どのように活用しているのか。

❷「高齢者保健福祉ビジョン2003」にある様々な介護予防サービスの効果、成果は。

❸介護予防事業に携わる専門的知識を有する人材の配置、具体的な対応は。

❹要支援や要介護1の軽度の認定者が増加、今後の具体的な方策は。

町長 ❶高齢者保健福祉の概要は、平成12年に作成し年数も経過したことから、本年3月に改訂版を作成し、保健福祉センターや札内支所などの窓口に備え付けている。介護サービス事業者やケアマネージャー、民生委員、公区長、社会福祉協議会など多くの関係機関にも配付しており、町民から相談があった際などに利用していただいている。

また、保健福祉制度の周知については、広報や民生委員を通じて行っているが、できるだけ多くの方に利用していただけるよう考えていきたい。

❷居宅サービスや施設サービスなどの利用者は、平成16年4月末現在、要介護認定者784人のうち565人で、前年同期に比べて人数で68人、率で13・7％の伸びとなっている。生きがい活動支援事業や外出支援サービスなどのいわゆる「介護保険を補完する事業」においても、同様に利用が伸びてきている。

平成13年度に居宅サービスの利用者と家族を対象に実施したアンケート調査によると、「サービスに満足している」との答えが、本人で71％、家族で81％という高い評価を得ることができ、具体的には「デイサービスが楽しい。」、「サービスを利用することによって元気が出た。」、「外出機会が増えた。」、「これらのサービスがあるおかげで、在宅生活を続けることができている。」などの意見をいただいている。

また、平成14年度には、介護保険施設や病院に入られている方の家族を対象に調査を行ったが、「現在のサービスに満足している」との答えが81％を占め、「安心できる。」、「心身共にリラックスできる。」、「家にいたら寝たきりになるところであったが、施設に入所でき、リハビリをしたおかげで寝たきりにならずに済んだ。」などという意見が寄せられている。

❸介護予防事業は、保健師と栄養師の9名が中心となり、その専門性を活かしながら対応しているが、今後も、より充実した事業を展開するため、必要な研修に参加させるなど職員の資質向上を図っていきたい。

また、ケアマネージャーや有資格者のボランティアの方を含めた全体的な取り組みの中で、介護者が少なくなるような方策に、これからも取り組んでいきたい。

❹平成15年4月末における幕別町の要介護認定者は703人で、うち要支援が128人、要介護1が278人で、いわゆる「軽度の認定者」が全体の57・7％を占めている。平成12年4月末の40・6％からみると17・1ポイント上昇した。

現在、国においては、介護予防が介護保険制度の見直しにおける最重要テーマの一つとなっており、「軽度の認定者」の増加に対応した基盤整備を進め、新たな予防給付を探っていく議論もされると聞いており、その推移なども見守りながら対応していきたい。

満足度が高い介護保険施設（老健あかしや）